

令和8年度病害虫発生予察特殊報第1号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和8年度 香川県病害虫発生予察特殊報 第1号

1. 病害虫名： クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann)
2. 発生作物： サクラ、スモモ
3. 発生地域： 小豆地域
4. 確認の経緯
 - (1) 令和8年7月8日、小豆地域のサクラおよびスモモにおいて樹幹や株元付近に本種の加害によると考えられるフラス（幼虫の糞と木くずが混じったもの）の排出が確認され、フラスが出ていた樹および周辺樹を調査したところ、クビアカツヤカミキリと考えられる成虫を発見した。
 - (2) 香川県農業試験場病害虫防除所において、成虫の形態的特徴およびフラスの状況からクビアカツヤカミキリと判断した。被害は主に老樹や衰弱樹で認められ、樹幹地際部からのフラス排出が顕著であった。なお、本県で本種の被害が確認されたのは今回が初めてである。
5. 国内外の発生状況

本種は中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部などの東アジア原産である。国内では、これまでに18都府県で発生が確認されていたところ、今回の確認により、国内での確認は19都府県となった。
6. 形態と生態
 - (1) 成虫の体長は2～4cm程度で、光沢のある黒色を呈する(写真1)。前胸は通常、前縁と基部を除き赤色を呈する。触角と脚部は暗青灰色で、前胸背板には4つの小突起があり、両側の突起は外側に突出する。
 - (2) 成虫は6月から8月頃に出現し、雌成虫は1個体あたり300個以上の卵を樹皮の隙間に産卵する。この極めて高い繁殖力が、短期間での被害拡大の要因となっている。
 - (3) 幼虫は樹木内部を食害しながら成長する。幼虫期間は2～3年程度とされ、春から初夏にかけて摂食活動が盛んになる。

7. 被害の特徴

- (1) 被害樹では、樹幹や株元からフラスが排出される(写真2)。フラスは幼虫の糞と木くずが混じったもので、薄い木片状のものを含むことが多い。被害が進行すると樹勢が低下し、最終的には枯死に至る。
- (2) 本虫はバラ科樹木を加害し、国内では、サクラ、ウメ、モモ、スモモといったサクラ亜科に属する多くの樹種で被害が報告されている。

8. 防除対策（参考：[日本の果樹と樹木を守る外来カミキリムシ総合対策マニュアル](#)（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構））

- (1) 本種は特定外来生物に指定されており、生きたまま持ち運ぶことは禁止されている。成虫を発見した場合は、その場で直ちに捕殺する。確認が必要な場合に備え、捕殺個体は保管するか写真を撮影しておく。
- (2) 疑わしいフラスを発見した場合は、食入孔を確認し、針金や千枚通し等で中の幼虫を刺殺する。内部の幼虫には薬剤が届きにくいいため、フラスをかき出したうえで、食入孔にノズルを深く差し込み、登録のある殺虫剤を注入する。
- (3) 成虫の脱出・分散を防ぐため、被害樹には目合い4mm以下のネットを、地際部から1～2m程度の高さまで巻き付ける。ネットは樹幹に密着させすぎず、ある程度余裕を持たせて設置する。
- (4) 複数箇所に食害がみられる樹木では、内部の幼虫を完全に駆除することが困難なため、伐採する。伐採樹内でも幼虫が成長し成虫が発生するおそれがあるため、伐採した木は速やかに処分する。
- (5) 成虫を対象とした防除は、成虫の発生時期である6～8月に、樹冠全面または樹幹部に殺虫剤を散布する。樹幹内の幼虫に対しては、フラス排出孔への薬剤注入を中心とした防除を行う。薬剤使用に当たっては、最新の登録情報を確認し、使用基準を遵守する。



写真1 クビアカツヤカミキリ成虫



写真2 スモモの木から排出されたフラス

写真1～2：香川県農業試験場病害虫防除所 原図

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

